MWC2023 見聞と日本パビリオン展示について

一般財団法人日本ＩＴＵ協会　専務理事　田中（たなか）　和彦（かずひこ）

■図1.　展示会場主入場口全景

Mobile World Congress 2023については、当協会ホームページのビジュアルレポートで、会場模様などを紹介している。本稿では、本イベントに関する見聞と日本パビリオン展示に関して報告するが、会場模様などの詳細はこのビジュアルレポートでご覧いただきたい。

〈Mobile World Congress 2023 ビジュアルレポート/全天球写真･ビデオ〉

https://www.ituaj.jp/00_sg/20230227_MWC23/MWC23.html

https://www.ituaj.jp/00_sg/20230227_MWC23/MWC23_SP.html

1.　MWC2023概況

2023年2月27日～3月2日の4日間、スペイン･バルセロナで、世界最大級の移動体通信に関する展示会 Mobile World Congress（MWC）2023が開催された。

参加者は、8.85万人で、これは当初の主催者の想定を上回るものとなった。ICTに関する世界の主要な大規模展示会の参加者の動向を見ると2020年春からのCOVID-19パンデミックの影響を受けて来たが、今年は、ようやく以前の状況に戻りつつあると言えよう。（表1）

■表1.　主要大規模展示会参加者動向

	MWC	CES	Hannover Messe	GITEX
開催場所 開催年	バルセロナ スペイン	ラスベガス 米国	ハノーバー ドイツ	ドバイ UAE
2023	8.85万人	11．5万人	-	-
2022	6万人	4万人	7．5万人	13．8万人
2021	2万人	オンライン	オンライン	15万人
2020	中止	17万人	中止	20万人
2019	10万人	18万人	21．5万人	-

会場は、バルセロナ市中心からやや離れたフィラ・デ・バルセロナという巨大な展示会場で、広さは20万m^2、東京ドームの約4倍の広さである。（図2、図3）

■図2.　バルセロナ市内と展示会場（Googleマップを基に筆者作成）

■図3.　展示会場と東京ドーム比較（Googleマップを基に筆者作成）

会場内は、複数の展示棟で、巨大な展示パビリオンから、比較的小規模な展示ブースまで、様々な展示が行われ、連日、多くの来場者で混み合った。（図4）

本展示会は、移動体通信に関する展示会であるが、関連技術、製品に加え、非常に幅広い技術、製品などに関する展示も多く見られた。例えば、廃棄物からプラスティックを作る技術、超高速輸送システム（ハイパーループ）等、一見関係無さそうな展示も多くの見学者を集めていた。（図5）

ベンチャー企業を対象としたFour Years From Now（4YFN）は、主会場から独立した会場で開催された。（図6）

また、本展示会の開催前日には、報道関係者を対象としたShow Stoppersという、少数の展示社によるプレビュー的展示会が、会場とは別の市内の会場で開催された。（図7）

■図4. 展示フロア模様

■図6. 4YFN展示会場入口

■図5. 超高速輸送システム（ハイパーループ）

■図7. Show Stoppers会場入口（バルセロナ海洋博物館）

2. 日本パビリオン展示

総務省の施策として日本企業による日本パビリオンでの展示が11社により行われた。

■表2. 日本パビリオン展示社（アルファベット順）

- 株式会社コムワース
- 古河電気工業株式会社
- 株式会社イイガ
- 日本航空電子工業株式会社
- 日本無線株式会社
- 森田テック株式会社
- 株式会社RevComm
- 株式会社toraru
- 株式会社ゼウス

日本ITU協会では総務省より日本パビリオン展示事務局業務を受託し、展示社募集、パビリオン設計、展示実施などの業務を担当した。（図8）

日本パビリオンでは、通信インフラストラクチャー（光ファイバー、5G/Beyond 5Gソリューション等）、測定・評価技術、5G/Beyond 5G応用技術など、多彩な展示内容により、連日、多くの見学者が日本パビリオンを訪れ、中には、見学者の国でのイベントに参加して欲しい、この企業に紹介したいなど、具体的な商談が行われることもあった。

■図8. 日本パビリオンイメージ図

また、国際電気通信連合（ITU）の事務総局長、事務総局次長、タイ国家放送通信委員会委員長等、国際機関、各国政府機関の要人も日本パビリオンを訪問し、例えば、日本でのローカル5Gによる地域活性化への取組み等、各展示内容を興味深く見学された。（図9）

■図9. ボグダン＝マーティンITU事務総局長との記念写真

3. MWC所感

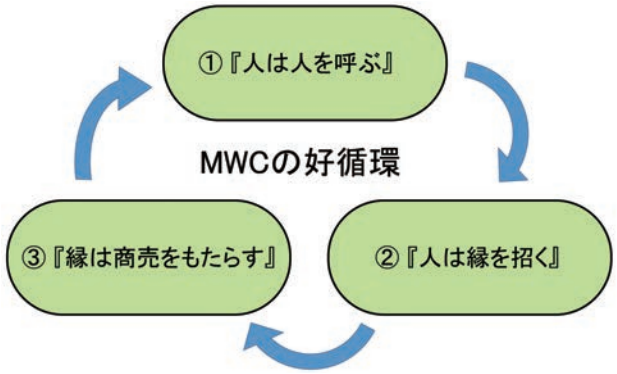
筆者は長年、ICT分野の技術調査の一環として、大規模な展示会（COMDEX、VON、CES、ITUテレコムワールド、CEATEC等）への参加や展示に関わってきたが、MWCについては、正に、その規模、活況に関して、「聞きしに勝る展示会」であると感じた。

何より、その参加者が非常に多く、「人は人を呼ぶ」現象が起きていると感じた。これは「ネットワークの価値はその2乗に比例する」という「メトカーフの法則」を証明しているのではないかと思う。また、その集まった人々によって「人は縁を招く」ことを実感した。これは、本展示会が、情報を発信するプッシュの場であるだけでなく、積極的に情報を得ようとするプルの場であるからだと思った。さらに、この「縁は商売をもたらす」、つまり、今回、日本パビリオン展示においても、初めて展示を行った企業に具体的な商談が持ち込まれたことがその実例である。（表3）

商売がもたらされることにより、更に人が集まる、という「好循環」が長年にわたって実現されているのだと感じた。それにより多くの人々が集まるだけでなく、移動体通信に限らない幅広い技術、ビジネスの展示が行われる大規模な展示会となったのだと思う。（図10）

■表3.「聞きしに勝る 展示会」

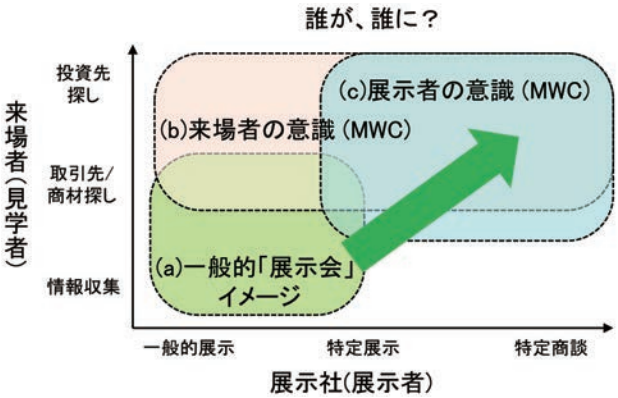
「聞きしに勝る 展示会」
①『人は人を呼ぶ』 → メトカーフの法則「ネットワークの価値は接続数の2乗に比例」
②『人は縁を招く』 →「プッシュ」だけでなく「プルの場」
③『縁は商売をもたらす』 →具体的な引き合い、商談



■図10.「MWCの好循環」

展示会において、その来場者（見学者）と展示社（展示者）の関係を考えてみると、一般的な「展示会」では「一般的な展示」を「情報収集」あるいは「取引先/商材探し」に訪れた来場者にプッシュする場というイメージが強いのではないかと思われる。

MWCでは、来場者は、取引先/商材探し、あるいは、将来有望な技術、企業への投資先探しのために訪れ、展示側も、特定の技術やソリューションの展示、また、具体的で特定の商談を狙った展示を行っていると感じた。（図11）



■図11.「誰が、誰に？」

ビジネスチャンスを広げる非常に有意義な場となっているMWCは、次回、2024年2月26日～2月29日に開催予定であり、初めて展示する企業にとって展示を行いやすい日本パビリオン展示も行われる予定であるとのことなので、ぜひ、多くの日本企業にこの場を活用していただきたい。

「MWCバルセロナ2024」における出展支援のご案内
（総務省 国際経済課）

https://www.soumu.go.jp/menu_news/s-news/01tsushin08_02000158.html

（2023年5月24日　情報通信研究会より）